

第6号議案

令和7年度に中学校において使用する教科用図書の採択の適正を図るため、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律施行令第8条に定める採択基準と選定に必要な資料について

令和7年度に中学校において使用する教科用図書の採択の適正を図るため、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律施行令第8条に定める採択基準と選定に必要な資料について、次のとおり定める。

令和6年5月10日

滋賀県教育委員会

別紙のとおり

令和6年度 滋賀県教科用図書選定審議会への諮問～答申（第1次）

諮問事項1

令和7年度に中学校において使用する教科用図書の採択の適正を図るため、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律施行令第8条に定める採択基準と選定に必要な資料について、御意見を賜りたい。

答 申

義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律施行令第8条に定める採択基準および選定に必要な資料については、以下のとおりとすべきである。

1 採択基準について

- (1) 義務教育諸学校で使用する教科用図書（以下「教科書」という。）の採択は、「義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律」の規定に基づいて適正に実施すること。
- (2) 採択にあたっては、令和6年3月29日付け5文科初第2567号「教科書採択における公正確保の徹底等について（通知）」、令和6年3月29日付け5文科初第2568号「教科書採択の公正確保について（通知）」および令和6年3月29日付け5初教科第34号「令和7年度使用教科書の採択事務処理について（通知）」に基づき、専門的な教科書研究の充実を図るとともに、適正かつ公正な採択および開かれた採択を確保すること。
- (3) 調査研究にあたっては、次の観点について、教科（種目）ごとに行うこと。
 - A 知識及び技能
 - B 思考力、判断力、表現力等
 - C 学びに向かう力、人間性等
- (4) 種目 英語においては、学習者用デジタル教科書の機能等について、調査研究を行うこと。
- (5) 令和7年度に中学校において使用する教科書の採択にあたっては、県教育委員会の示す「選定に必要な資料」を十分活用すること。
- (6) 特別支援学級において使用する教科書の採択にあたっては、以下のとおりとすること。
 - ① 令和7年度に特別支援学級において使用する教科書の採択にあたっては、県教育委員会の示す「選定に必要な資料」を十分活用すること。
 - ② 生徒の障害の種別および程度を十分考慮し、採択すること。

2 選定に必要な資料について

- (1) 通常の学級においては、教科書の選定に必要な資料は以下のとおりとする。
 - ア「中学校教科用図書選定に必要な資料（令和6年度作成）」
- (2) 特別支援学級においては、教科書の選定に必要な資料は以下のとおりとする。
 - ア「中学校教科用図書選定に必要な資料（令和6年度作成）」
 - イ「中学校特別支援学級教科用図書選定に必要な資料（令和6年度作成）」
 - ウ「令和6年度用一般図書契約予定一覧」（文部科学省）

中学校教科用図書選定に必要な資料（令和6年度作成）

調査研究観点

各種目（教科）の観点の内容

滋賀県教育委員会

令和6年度中学校教科用図書調査研究における観点等について

■学習指導要領各教科（種目）の目標にかかわる観点について

学習指導要領では、前文において、一人一人の児童が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められると示されている。また、「生きる力」をより具体化し、教育課程全体を通して育成を目指す資質・能力として、ア「何を理解しているか、何ができるか（生きて働く「知識及び技能」の習得）」、イ「理解していること・できることをどう使うか（未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力等」の育成）」、ウ「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」の涵養）」が三つの柱として整理されるとともに、学習指導要領では全ての教科（種目）においてそれぞれ示されている。

また、本県においては、第4期滋賀県教育振興基本計画（2024年度～2028年度）を策定し、基本目標である、「未来を拓く心豊かでたくましい人づくり」を受け、学習指導要領の求める教育の理念に基づき、一人ひとりの基礎的・基本的な知識・技能や、文章や対話などから「読み解く力」、学びを深める探究的に学ぶ力を基盤として、滋賀に生きる子どもたちの確かな学力を育む教育の推進を図るところである。このことはまさに学習指導要領で求められている資質・能力の育成につながるものである。

よって令和6年度教科用図書の調査研究にあたっては、本県の教育の施策や学習指導要領の各教科・分野の「目標」などを踏まえ、確かな学力を育むために以下の観点を各教科（種目）で設定し、各教科書の内容について総括的に調査研究をするものとする。

調査を行う観点

観点A「知識及び技能」

観点B「思考力、判断力、表現力等」

観点C「学びに向かう力、人間性等」

◇観点A「知識及び技能」について

資質・能力の育成は、子どもが「何を理解しているか、何ができるか」に関わる知識及び技能の質や量に支えられており、発達の段階に応じて確実に習得できるような教材や学習活動が必要である。

このことから調査については観点Aとし、基礎的・基本的な概念や知識・技能の習得に係る教材や学習活動を調査することとした。

◇観点B「思考力、判断力、表現力等」について

「思考力、判断力、表現力等」とは、「知識及び技能」を活用して課題を解決するために必要な力であり、この力を育成するために、物事の中から問題を見だし、解決方法を探して計画を立て、実行し、振り返って次の問題発見・解決につなげていく活動や、情報を基に自分の考えを形成し、文章や発話によって表現したり、互いの考えを適切に伝え合い、多様な考えを理解したりする活動等が必要である。

このことから調査については観点Bとし、各教科の指導の中で、身に付けた知識・技能を基にしながらか情報を適切に選択し活用する学習内容や、問題発見・解決的な学習内容、相手の心情を読み解きながら考えたことを説明したり自分の意見をまとめ発表したりする学習内容を調査することとした。

◇観点C「学びに向かう力、人間性等」について

子ども一人ひとりが社会と積極的に関わり、より良い人生を送るために、社会や世界との関わりのなかで、学んだ事の意義を実感できるような、子どもの学習意欲を喚起する学習活動が必要である。また、各教科の特性に応じた態度や心情を育むことができる学習活動が必要である。

このことから調査については観点Cとし、授業や家庭学習を通じながら、教科への意欲・関心を高めたり、学びに向かう姿勢を育てることができたりする内容を調査することとした。

なお、教科書に掲載されている二次元コードからアクセスできるデジタル教材については、教科書の内容と関連があり、理解を深める内容となっているかという視点から、その特長を調査することとした。

観点の内容

国語科 目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

観 点	観点のための研究調査事項	指導についての留意事項
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉の特徴や使い方に関する事項を取り上げている箇所数 ・情報の扱い方に関する事項を取り上げている箇所数 ・我が国の言語文化に関する事項を取り上げている箇所数 	<ul style="list-style-type: none"> ・語感を磨き語彙を豊かにすること、話や文章に含まれている情報の扱い方に関することを身に付けること、また、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることなどについて指導するよう留意する。
B 思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・話したり聞いたりする活動や話し合う活動を取り上げ、「話すこと・聞くこと」の学習過程を明確に示している箇所数 ・説明的な文章や実用的な文章、文学的な文章を書く活動を取り上げ、「書くこと」に関する学習過程を明確に示している箇所数 ・説明的な文章、文学的な文章、本などから情報を得て活用する活動を取り上げ、「読むこと」の学習過程を明確に示している箇所数 	<ul style="list-style-type: none"> ・「話すこと」「聞くこと」「話し合うこと」の学習過程に共通する指導事項「話題の設定」「情報の収集」「内容の検討」をはじめ、目的や場面に応じて、必然性をもって学習を進められるように留意する。 ・「書くこと」の学習過程は「題材の設定」「情報の収集」「内容の検討」「構成の検討」「考えの形成」「記述」「推敲」「共有」と明確に位置付けられている。特に、自分の考えを深め、記述することに対する指導が充実するように留意する。 ・「読むこと」の学習過程が「構造と内容の把握」「精査・解釈」「考えの形成、共有」と示されている。「読むこと」領域においては、〔知識及び技能〕の「読書」に関する事項との関連に留意する。
C 学びに向かう力、人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領に記載してある言語活動例が示されている箇所数 ・国語科の学習が読書活動に結び付いている箇所数 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科及び学年の目標において挙げられている態度等を養い、「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」の育成が一層充実するように留意する。 ・自ら進んで読書をし、読書を通して人生を豊かにしようとする態度を養うように留意する。

調査方法

種目名【 国語 】

観点	調査する内容・項目についての説明
<p style="text-align: center;">A 知識及び技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉の特徴や使い方に関する事項を取り上げている箇所数について調査を行う。 (例) 相手の行動を促す働きについての記載、話し言葉と書き言葉、事象や行為・心情を表す語句、辞書的な意味と文脈上の意味との関係に関する箇所、類義語、対義語、同音異義語、多義的な意味を表す語句、慣用句、四字熟語、和語、漢語、外来語に関する箇所 ・情報の扱い方に関する事項を取り上げている箇所数について調査を行う。 (例) 原因と結果、意見と根拠、具体と抽象という情報の関係に関する箇所、分類、関係付け、引用、出典に関する箇所、情報の信頼性の確かめ方に関する箇所 ・我が国の言語文化に関する事項を取り上げている箇所数について調査を行う。 (例) 古典、言葉の由来や変化、共通語と方言に関する箇所
<p style="text-align: center;">B 思考力、判断力、表現力等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・話したり聞いたりする活動や話し合う活動を取り上げ、「話すこと・聞くこと」の学習過程を明確に示している箇所数について調査を行う。 (例) 話題の設定や情報の収集、内容の検討に関する箇所 ・説明的な文章や実用的な文章、文学的な文章を書く活動を取り上げ、「書くこと」に関する学習過程を明確に示している箇所数について調査を行う。 (例) 「題材の設定」「情報の収集」「内容の検討」「構成の検討」「考えの形成」「記述」「推敲」「共有」に関する箇所 ・説明的な文章、文学的な文章、本などから情報を得て活用する活動を取り上げ、「読むこと」の学習過程を明確に示している箇所数について調査を行う。 (例) 「構造と内容の把握」「精査・解釈」「考えの形成」「共有」に関する箇所
<p style="text-align: center;">C 学びに向かう力、人間性等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領に記載してある言語活動例が示されている箇所数について調査を行う。 (例) 紹介、報告、質問、助言、評価、議論、討論、記録、案内、詩・短歌・俳句・物語・随筆などの創作、手紙、電子メールに関する箇所 ・国語科の学習が読書活動に結び付いている箇所数について調査を行う。 (例) 進んで読書をすること、読書を生活に役立てること、読書を通して自己を向上させることに関する箇所 ※新聞、雑誌を読んだり、調べるための資料を読んだりすることを含む。

デジタル教材について	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書に掲載されている二次元コードからアクセスできるデジタル教材について、教科書の内容とどのような関連があるか調査を行う。 ・理解を深める内容となっているか調査を行う。
------------	--

観点の内容

国語科 書写 目標

各教科等の学習活動や日常生活に生かすことのできる書写の能力を育成することを目指す。

- (1) 文字を効果的に書くことができる力を育成する。
- (2) 硬筆を使用する書写の能力の基礎を養う。
- (3) 書写の能力を学習や生活に役立てる態度を育てる。

観 点	観点のための研究調査事項	指導についての留意事項
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・字形、文字の大きさ、配列の例示の箇所数 ・楷書や行書の書き方についての注意例の箇所数 	<ul style="list-style-type: none"> ・楷書と行書や漢字とかなとの関連的な指導を工夫し、目的や必要に応じた書き方を判断したり効果的に文字を書いたりできるように留意する。
B 思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・手本となっている文字の数 ・手本に関わる例示の箇所数 	<ul style="list-style-type: none"> ・硬筆及び毛筆を使用する書写の指導は各学年で行い、毛筆を使用する書写の指導により、硬筆による書写の能力の基礎を養うように留意する。
C 学びに向かう力、人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・書写の能力を生かす様々な場面（模造紙にまとめる、手紙を書くなど）の紹介例の箇所数 	<ul style="list-style-type: none"> ・書写の学習で身に付けた資質・能力を、各教科等の学習や生活の様々な場面で積極的に生かすように留意する。

調査方法

種目名【 書写 】

観点	調査する内容・項目についての説明
<p style="text-align: center;">A 知識及び技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・字形、文字の大きさ、配列の例示の箇所数について調査を行う。 （例）字形、文字の中心、字間、かなと漢字の調和の注意点などの箇所 ・楷書や行書の書き方に関する注意例の箇所数について調査を行う。 （例）筆脈、点画の形や方向、筆順等の比較による留意点に関する記述箇所
<p style="text-align: center;">B 思考力、判断力、表現力等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・楷書、行書の手本の数について調査を行う。 ・手本から確認する事項や留意点、特徴についての箇所数について調査を行う。 （例）実際に字を書く時の、点画、筆順等の留意点に関する記述箇所
<p style="text-align: center;">C 学びに向かう力、人間性等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・目的や必要に応じて効果的に書くなど、様々な場面の紹介例の箇所数について調査を行う。 （例）手紙を書く、作品を作る、メモをする、ポスターやレポートにまとめる、新聞やリーフレットで発信する、掲示する等、日常生活に生かすための記述箇所

<p style="text-align: center;">デジタル教材について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書に掲載されている二次元コードからアクセスできるデジタル教材について、教科書の内容とどのような関連があるか調査を行う。 ・理解を深める内容となっているか調査を行う。
---	--

観点の内容

社会科 目標

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

1

- (1) 我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) 社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土や歴史に対する愛情、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

観 点	観点のための研究調査事項	指導についての留意事項
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して、社会における様々な場面で活用できる、概念などに関する知識について理解させるための学習内容の箇所数 ・調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付ける学習内容の箇所数 	<ul style="list-style-type: none"> ・単に知識を身に付けるのではなく、基礎的・基本的な知識を確実に習得しながら、既得の知識と関連付けたり組み合わせたりしていくことにより、学習内容の深い理解と、個別の知識の定着を図るとともに、社会における様々な場面で活用できる、概念などに関する知識として獲得するよう留意する。 ・小学校の社会科での学習を踏まえるとともに、高等学校の地理歴史科、公民科での学習を視野に、中学校社会科の学習において生徒が身に付けることが目指される技能を繰り返し活用し、その習熟を図るよう留意する。
B 思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察する学習内容の箇所数 ・社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする学習内容の箇所数 ・思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする学習内容の箇所数 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習対象としている社会的事象自体が様々な側面をもつ「多面性」と、社会的事象を様々な角度から捉える「多角性」とを踏まえて考察するよう留意する。 ・現実社会において生徒を取り巻く多種多様な課題に対して、「それをどのように捉えるのか」、「それとどのように関わるのか」、「それにどのように働きかけるのか」といったことを問う中で、それらの課題の解決に向けて自分の意見や考えをまとめることができるよう留意する。 ・考察、構想（選択・判断）したことを、資料等を適切に用いて論理的に示したり、その示されたことを根拠に自分の意見や考え方を伝え合い、自分や他者の意見や考え方を発展させたり、合意形成に向かおうとしたりするよう留意する。
C 学びに向かう力、人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする学習内容の箇所数 ・社会的事象について、多面的・多角的な考察や深く理解させるための学習内容の箇所数 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象について主体的に調べ分かれようとして学習上の課題を意欲的に解決しようとする態度や、よりよい社会の実現に向けて、多面的・多角的に考察、構想（選択・判断）したことを社会生活に生かそうとする態度を養うよう留意する。

調査方法

種目名【 社会 】

観点	調査する内容・項目についての説明
<p style="text-align: center;">A 知識及び技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して、社会における様々な場面で活用できる、概念などに関する知識を身に付けるための学習内容の箇所数について調査を行う。 (例) 「中世」や「近世」といった時代の特色を踏まえた学習内容の箇所 ・調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付ける学習内容の箇所数について調査を行う。 (例) 「中世の日本」を大観するなど、自分の言葉で表現する学習内容の箇所
<p style="text-align: center;">B 思考力、判断力、表現力等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察する学習内容の箇所数について調査を行う。 (例) 「他地域とのつながり」などを踏まえた学習内容の箇所 ・社会に見られる課題の解決に向けて選択したり判断したりする学習内容の箇所数について調査を行う。 (例) 「環境問題」などを踏まえた学習内容の箇所 ・思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする学習内容の箇所数について調査を行う。 (例) 「雨温図」を用いて気候の特色を捉えるなどの学習内容の箇所
<p style="text-align: center;">C 学びに向かう力、人間性等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に入れ、課題を主体的に解決しようとする学習内容の箇所数について調査を行う。 (例) 「持続可能な社会」の実現を目指そうとするなどの学習内容の箇所 ・社会的事象について、多面的・多角的な考察や深く理解するための学習内容の箇所数について調査を行う。 (例) 「対立と合意」に着目して考察しようとするなどの学習場面の箇所
<p style="text-align: center;">デジタル教材について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書に掲載されている二次元コードからアクセスできるデジタル教材について、教科書の内容とどのような関連があるか調査を行う。 ・理解を深める内容となっているか調査を行う。

観点の内容

社会科 地図 目標

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) 社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土や歴史に対する愛情、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

観 点	観点のための研究調査事項	指導についての留意事項
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・地図の使い方や読図・作図などの活用方法を取り上げている箇所数 ・見学調査の方法、学習の進め方やまとめ方を取り上げている箇所数 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科用図書「地図」は、地図を効果的に活用することに関わって、社会的事象を適切に見たり考えたりする能力を育てるために必要な教材である。教科用図書「地図」は、地名の位置を確認することができるだけでなく、社会的事象の様子や関係、自然環境との関わりを調べることもできる。こうした活用の仕方を身に付けるとともに、教科用図書「地図」を日常的に活用し、教科用図書「地図」への親しみをもたせ、課題解決のために教材として効果的に活用する知識や技能を育てるよう留意する。
B 思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・基本図の箇所数 (世界地図、日本地図、世界州別図、日本地域別図) ・資料図の箇所数 (社会的事象の様子や関係、自然環境との関わり、その他) 	<ul style="list-style-type: none"> ・考察、構想(選択・判断)したことを、教科用図書「地図」を適切に用いて論理的に示したり、その示されたことを根拠に自分の意見や考え方を伝え合い、自分や他者の意見や考え方を「地図」に表したりする表現力を育成するよう留意する。
C 学びに向かう力、人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・資料図のテーマの数 ・巻末の統計資料の項目の数 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科用図書「地図」を活用し、社会的事象について主体的に調べ分かって学習上の課題を意欲的に解決しようとする態度や、よりよい社会の実現に向けて、多面的・多角的に考察、構想(選択・判断)したことを社会生活に生かそうとする態度を養うよう留意する。

調査方法

種目名【 地図 】

観点	調査する内容・項目についての説明
<p style="text-align: center;">A 知識及び技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地図の使い方や読図・作図などの活用方法を取り上げている箇所数について調査を行う。 （例）地図帳の使い方の説明などが掲載されている箇所 ・ 見学調査の方法、学習の進め方やまとめ方を取り上げている箇所数について調査を行う。 （例）見学調査の方法、学習の進め方やまとめ方などが掲載されている箇所
<p style="text-align: center;">B 思考力、判断力、表現力等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本図の箇所数、資料図の箇所数について調査を行う。 （例）世界の生活・文化について掲載されている箇所数 （例）各地域の資料図の項目数（農業分布・鉱産資源など）
<p style="text-align: center;">C 学びに向かう力、人間性等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料図のテーマの数や巻末の統計資料の項目の数について調査を行う。 （例）「日本の自然環境」や「日本の災害と防災」などのテーマで扱われている資料図の項目数

<p style="text-align: center;">デジタル教材について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書に掲載されている二次元コードからアクセスできるデジタル教材について、教科書の内容とどのような関連があるか調査を行う。 ・ 理解を深める内容となっているか調査を行う。
---	--

観点の内容

数学科 目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
- (2) 数学を活用して事象を論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見だし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。
- (3) 数学的活動の楽しさや数学のよさを実感して粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする態度を養う。

観 点	観点のための研究調査事項	指導についての留意事項
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・数量や図形についての基礎的な知識及び技能を身に付ける「例・例題」「問・練習問題」の箇所数 ・学習のまとめ、公式や性質を扱っている事項の箇所数 	<ul style="list-style-type: none"> ・計算などの技能を学ぶ際には、その手続きの基礎に概念や原理・法則があることや、概念や原理・法則をうまく使って数学的な処理の仕方が考え出されることを理解できるように留意する。 ・問題発見・解決の過程において、数学を適切に活用するために、生きて働く数学的な知識に支えられた技能を習得できるように留意する。
B 思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・思考力、判断力、表現力を身に付ける「例・例題」「問・練習問題」の箇所数 ・問題発見・解決する過程において、見通しをもち筋道を立てて考える内容を取り扱っている箇所数 ・具体物、図、言葉、式、表、グラフなどを用い、自分の考えを表現したり、説明したりする学習活動を取り上げている箇所数 	<ul style="list-style-type: none"> ・数学の事象から問題を見だし、数学的な推論などによって問題を解決し、解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察する過程を遂行することを通して養われるよう留意する。 ・目的に応じて的確な数学的な表現を選択したり、一つの対象の幾つかの数学的な表現を相互に関連付けたりすることを通して、事象の本質を捉えたり、理解を深めたりできるように留意する。
C 学びに向かう力、人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・各々の内容や方法などがもつよさを明らかにしていくような課題を取り扱っている箇所数 ・生活や学習の様々な場面で数学を活用する内容を取り上げている箇所数 	<ul style="list-style-type: none"> ・事象を理想化したり抽象化したりして数学の舞台にのせて考察し、事象に潜む法則を見つけたり、観察や操作、実験などによって見いだした数や図形の性質を発展させたりする活動を通して、数学を学べるよう留意する。 ・数学が日常生活や社会生活において、また他教科の学習やその後の人生において必要不可欠なものであることを実感できるように留意する。

調査方法

種目名【 数学 】

観点	調査する内容・項目についての説明
<p style="text-align: center;">A 知識及び技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・数量や図形についての基礎的な知識及び技能を身に付ける「例・例題」「問・練習問題」の箇所数について調査を行う。 (例)「例・例題」の箇所及び、「問・練習問題」等の適用問題の箇所 ・学習のまとめ、公式や性質を扱っている事項の箇所数について調査を行う。 (例)「このように、代入によって1つの文字を消去する方法を代入法といいます。」 「角錐、円錐の底面積をS、高さをh、体積をVとすると、$V = \frac{1}{3} S h$」 等、特だして記載している箇所
<p style="text-align: center;">B 思考力、判断力、表現力等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・思考力、判断力、表現力を身に付ける「例・例題」「問・練習問題」の箇所数について調査を行う。 (例)「例・例題」の箇所及び、「問・練習問題」等の適用問題の箇所 ・問題発見・解決する過程において、見通しをもち筋道を立てて考える内容を取り扱っている箇所数について調査を行う。 (例)「姉が弟に追いつくのは家から何mのところかな」 「ほかにどんなことが読み取れるかな」 「～を使って、～だと予想しました。という形で説明しよう。」 等、吹き出しなどで課題を明確にしたり、見通しをもたせる内容が記載されていたりする箇所 ・具体物、図、言葉、式、表、グラフなどを用い、自分の考えを表現したり説明したりする学習活動を取り上げている箇所数について調査を行う。 (例)「～を説明しましょう。」「～図や式に表しましょう。」など、表現したり、説明したりする活動が記載されている箇所
<p style="text-align: center;">C 学びに向かう力、人間性等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各々の内容や方法などがもつよさを明らかにしていくような課題を取り扱っている箇所数について調査を行う。 (例)「相似な図形をかくことで、2点間の距離を求めることができます」 「○○と△△の関係を一次関数とみることができます。」 等、問題やまとめ、吹き出しなどでよさについて記載されている箇所 ・生活や学習の様々な場面で数学を活用する内容を取り上げている箇所数について調査を行う。 (例)「鉄道の運行の様子を表したダイヤグラムを読み取ってみよう」 「身の回りにある放物線について調べよう」 等、日常生活に関わりのあることを問題に設定されているものや、コラム等で数学を活用している場面を紹介している箇所
<p style="text-align: center;">デジタル教材について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書に掲載されている二次元コードからアクセスできるデジタル教材について、教科書の内容とどのような関連があるか調査を行う。 ・理解を深める内容となっているか調査を行う。

観点の内容

理科 目標

自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。
- (3) 自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

観 点	観点のための研究調査事項	指導についての留意事項
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・観察、実験の方法、器具や機器などの使い方及び事故防止等の安全に関する記述の箇所数 ・観察記録や実験データを絵や文、表やグラフに表す活動を示した箇所数 ・单元ごとや章末の練習問題等及び学習内容を整理する工夫の箇所数 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察、実験などを行うことを通して、自然の事物・現象に対する概念や原理・法則の理解を図るとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けることが重要である。その際、日常生活や社会との関わりの中で、科学を学ぶ楽しさや有用性を実感しながら、生徒が自らの力で知識を獲得し、理解を深めて体系化していくよう留意する。 ・観察、実験などに関する基本的な技能については、探究の過程を通して身に付けるよう留意する。
B 思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・問題を見いだして課題を設定し、予想や仮説、観察、実験の計画をする活動に関する箇所数 ・結果を分析して解釈し表現する力を高める活動に関する箇所数 ・探究の過程を振り返る活動に関する箇所数 	<ul style="list-style-type: none"> ・科学的に探究する力を育成するに当たっては、自然の事物・現象の中に問題を見いだし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈するなどの活動を行うよう留意する。 ・第1学年では自然の事物・現象に進んで関わり、それらの中から問題を見いだす活動、第2学年では解決する方法を立案し、その結果を分析して解釈する活動、第3学年では探究の過程を振り返る活動などに重点を置き、3年間を通じて科学的に探究する力の育成を図るよう留意する。
C 学びに向かう力、人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・科学技術の利用等、実生活・実社会、科学史に関する内容、自然の事物・現象について関心を高める内容、発展的な内容の箇所数 ・自然環境の調査、自由研究や課題研究等、生徒自らが探究的な活動の意欲を高める工夫の箇所数 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に探究する活動を通して、自然の美しさ、精妙さ、偉大さを改めて感得し、自然についての理解を深め、新たな問題を見いだそうとするなど、生徒の感性や知的好奇心などが育まれるよう留意する。 ・自然環境の保全や科学技術の利用に関する問題などでは、人間が自然と調和しながら持続可能な社会をつくっていくため、身の回りの事象から地球規模の環境までを視野に入れて、科学的な根拠に基づいて賢明な意思決定ができるような態度を身に付けるよう留意する。

調査方法

種目名【 理科 】

観点	調査する内容・項目についての説明
<p style="text-align: center;">A 知識及び技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・観察、実験の方法、器具や機器などの使い方及び事故防止等の安全に関する記述の箇所数について調査を行う。 (例) 顕微鏡の使い方、電流計等の使い方、メスシリンダーの使い方に関する箇所 (例) 安全めがねをかける、換気を十分に行うなどの記述箇所 ・観察記録や実験データを絵や文、表やグラフに表す活動を示した箇所数について調査を行う。 (例) 植物の分類、オームの法則、月の形の変化などの活動の箇所数 ・単元ごとや章末の練習問題及び学習内容を整理する工夫等の箇所数について調査を行う。 (例) 単元末、章末の練習問題、「考えてみよう」の箇所 (例) 単元末、章末の学習のまとめの箇所
<p style="text-align: center;">B 思考力、判断力、表現力等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・問題を見いだして課題を設定し、予想や仮説、観察、実験の計画をする活動に関する箇所数について調査を行う。 (例) 予想や仮説、実験の計画を考えたり、話し合ったりする場面、課題についての箇所 ・結果を分析して解釈し表現する力を高める活動に関する箇所数について調査を行う。 (例) 結果からどのようなことが言えるのか、話し合ったりする箇所 ・探究の過程を振り返る活動に関する箇所数について調査を行う。 (例) 実験の結果を基に、計画を振り返ったり、話し合ったりする箇所
<p style="text-align: center;">C 学びに向かう力、人間性等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・科学技術の利用等、実生活・実社会、科学史に関する内容、自然の事物・現象について関心を高める内容、発展的な内容の箇所数について調査を行う。 (例) 月探査機 SLIM、リチウム電池、白夜、緊急地震速報と減災などの内容を扱う箇所 (例) 物体の質量・速さと運動エネルギー、電池・電気分解のしくみなどの内容を扱う箇所 ・自然環境の調査、課題研究や自由研究等、生徒自らが探究的な活動の意欲を高める工夫の箇所数 (例) 課題研究テーマ例、時間があれば取り組みたい観察・実験を取り上げている箇所

<p style="text-align: center;">デジタル教材について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書に掲載されている二次元コードからアクセスできるデジタル教材について、教科書の内容とどのような関連があるか調査を行う。 ・理解を深める内容となっているか調査を行う。
---	--

観点の内容

音楽科 目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。
- (2) 音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。
- (3) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う。

観 点	観点のための研究調査事項	指導についての留意事項
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・知識の習得に関する記述の箇所数 ・表現の技能を高めるための記述の箇所数 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽を形づくっている要素などの働きについて実感を伴いながら理解し、表現や鑑賞に生かすことができるようにする。 ・音楽に関する歴史や文化的意義を、表現や鑑賞の活動を通して自己との関わりの中で理解できるようにする。 ・一定の手順や段階を追って身に付けることができるようにするのみではなく、課題などに応じて主体的に活用できる技能として身に付けることができるようにする。
B 思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽を形づくっている要素について、知覚したことと感受したこととの関わりについて考える活動が設定されている箇所数 ・楽譜の理解を深めるための工夫が見られる記述の箇所数 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えられるようにする。 ・音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図り、音楽科の特質に応じた言語活動を適切に位置付ける。
C 学びに向かう力、人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな演奏形態による教材数 ・知覚・感受したことを様々な方法で伝えたり意見交換したりするなど、言語活動の充実に関わる学習活動が設定されている箇所数 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽表現に対する思いや意図をもって音楽で表したり、曲想と音楽の構造や背景などに関わらせて味わって聴いたりすることによって、より深まった音楽活動の楽しさを体験できるようにする。 ・音や音楽、言葉によるコミュニケーションを図りながら、友達と音楽表現をしたり音楽を味わって聴いたりする楽しさや、様々な音楽に親しむことができるよう、指導計画を工夫する。

調査方法

種目名【 音楽 】

観点	調査する内容・項目についての説明
<p style="text-align: center;">A 知識及び技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・知識の習得に関する記述の箇所数について調査を行う。 (例) イメージ写真や説明、挿絵等の箇所 ・表現の技能を高めるための記述の箇所数について調査を行う。 (例) イメージ写真や説明、活動のイメージ図、挿絵等の箇所
<p style="text-align: center;">B 思考力、判断力、表現力等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽を形づくっている要素について、知覚したことと感受したこととの関わりについて考える活動が設定されている箇所数について調査を行う。 (例) 「音楽の特徴について確かめ、どのように歌いたいかまとめましょう」「音楽を聴いて、気付いたことをまとめましょう」などの記述がある箇所 ・楽譜の理解を深めるための工夫が見られる記述の箇所数について調査を行う。 (例) 音楽用語や記号についての説明や資料の箇所
<p style="text-align: center;">C 学びに向かう力、人間性等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな演奏形態による教材数について調査を行う。 (例) 声楽・合唱・オーケストラ・和楽器などの教材の箇所 ・知覚・感受したことを様々な方法で伝えたり意見交換したりするなど、言語活動の充実に関わる学習活動が設定されている箇所数について調査を行う。 (例) 「聴いて感じたことを話し合ひましょう」などの記述がある箇所
<p style="text-align: center;">デジタル教材について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書に掲載されている二次元コードからアクセスできるデジタル教材について、教科書の内容とどのような関連があるか調査を行う。 ・理解を深める内容となっているか調査を行う。

観点の内容

美術科 目標

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。
- (2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
- (3) 美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。

観 点	観点のための研究調査事項	指導についての留意事項
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・形や色彩、材料や光などの造形の要素に着目してそれらの働きを捉えたり、全体に着目して造形的な特徴などからイメージを捉えたりすることについて扱った箇所数 ・技法等などの手順を紹介した箇所数 	<ul style="list-style-type: none"> ・形や色彩などの性質や、それらが感情にもたらす効果、造形的な特徴などから全体のイメージや作風などで捉えることなどについて実感を伴いながら理解できるように留意する。 ・一定の手順に沿って材料や用具の使い方などの個別の技能を身に付けるだけでなく、生徒自らが発想や構想したことを基に、自分の意図をよりよく表現するための創造的に表す技能を身に付けられるよう留意する。
B 思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・言語活動の充実に関わる教材や学習活動が設定されている箇所数 ・鑑賞の活動に関わる題材の数 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己との対話を深めることや、[共通事項]に示す事項を視点に、表現において発想や構想に対する意見を述べ合ったり、鑑賞において作品などに対する自分の価値意識をもって批評し合ったりするなどの言語活動の充実に留意する。 ・鑑賞の指導については、各学年とも、各事項において育成を目指す資質・能力の定着が図られるよう、適切かつ十分な授業時数を確保することに留意する。
C 学びに向かう力、人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・美術を通じた生活との関わりを扱った箇所数 ・生徒が表現や鑑賞の学習をしている場面の箇所数 	<ul style="list-style-type: none"> ・美術科の授業の内容を学校内で閉じることなく、生活や社会とつなげて関わりをもたせ、気付かせる工夫をしながら、主体的に生活や社会の中で美術を生かし、創造していく態度が養えるよう留意する。

調査方法

種目名【 美術 】

観点	調査する内容・項目についての説明
<p style="text-align: center;">A 知識及び技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・形や色彩、材料や光などの造形の要素に着目してそれらの働きを捉えたり全体に着目して造形的な特徴などからイメージを捉えたりすることについて扱った箇所数について調査を行う。 (例) 「柔らかい感じが出るように赤い花びらを塗る」、「なめらかな感じが出るように木を削る」など表したい感じを意識したり、制作した作品を基に、形や色彩が感情にもたらす効果を踏まえて表現の意図や工夫について話し合ったりしている箇所 一題材の中に、複数の学習活動がある場合は、それぞれで一題材とする ・技法等の手順を紹介した箇所数について調査を行う。 (例) 図や写真等で道具の使い方や技法について紹介している箇所
<p style="text-align: center;">B 思考力、判断力、表現力等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・言語活動の充実に関わる教材や学習活動が設定されている箇所数について調査を行う。 (例) 作品に対する思いや考えを話し合ったり、批評し合ったりしている箇所 ・鑑賞の活動に関わる題材の数について調査を行う。 (例) 作品のよさや美しさを味わい、作者の思いや意図を感じ取る活動等、各発行者が、鑑賞に関わる内容として扱っている箇所
<p style="text-align: center;">C 学びに向かう力、人間性等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・美術を通じた生活との関わりを扱った箇所数について調査を行う。 (例) 学校生活で美術が活かされているような箇所や、工芸作品、日用品、工業製品、建築、標識、伝統芸能などについて扱っている箇所 ・生徒が表現や鑑賞の学習をしている場面の箇所数について調査を行う。 (例) 生徒が制作したり、作品について話し合ったりしている場面の箇所
<p style="text-align: center;">デジタル教材について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書に掲載されている二次元コードからアクセスできるデジタル教材について、教科書の内容とどのような関連があるか調査を行う。 ・理解を深める内容となっているか調査を行う。

観点の内容

保健体育科 目標

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。
- (2) 運動や健康についての自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- (3) 生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。

観 点	観点のための研究調査事項	指導についての留意事項
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・運動やスポーツとの多様な関わり方（楽しみ方）や「する・みる・支える・知る」について取り扱っている箇所数 ・健康や体力の状況に応じて体力を高める必要性について取り扱っている箇所数 ・心の健康や疾病の予防に関する健康課題の解決に関わる内容、ストレス対処や心肺蘇生法等の技能に関する内容の箇所数 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育や保健の見方・考え方を働かせることを通して、保健体育科においては、各種の運動がもたらす体の健康への効果はもとより、心の健康も運動と密接に関連していることを実感したり、生涯に渡って心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための知識及び技能を習得できるように留意する。 ・「する・みる・支える・知る」といった生涯に渡る豊かなスポーツライフを実現していく資質・能力の育成に向けて、運動やスポーツの価値や文化的意義等の指導はもとより、指導する領域が有する特性や魅力が理解できていること、運動実践につながる態度の形成に関する知識を獲得していること、保健で学習する健康・安全の概念と体育の分野で学習する健康・安全の留意点との関連を図ることに留意する。
B 思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な日常生活の体験や事例を題材にした話合いや、思考を促す資料を用いて健康・安全に関する課題を解決する学習活動を取り上げている箇所数 ・実践的理解を促すために実験などを取り上げたり、コラム、写真や図、グラフ、表などを用いて解説したりしている箇所数 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康・安全に関する課題に対応して、自己の健康・安全を保持増進するための的確に思考し、判断するとともに、それらを表現することができるような資質・能力の育成を目指すことに留意する。 ・健康に関する課題を解決するなどの学習活動を取り入れ、知識を身に付ける指導に偏ることなく、自ら考えたり、判断したりしながら実践的に理解できるよう留意する。
C 学びに向かう力、人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・運動やスポーツの多様な楽しみ方を共有することができるような共生の視点の箇所数 ・自己の健康・安全に関する取組や自己の健康・安全の保持増進や回復のために主体的、協働的に活動するよさに気付くような事例や問いの箇所数 ・身近な健康や心身の発育・発達などを肯定的に捉えられるような内容を取り上げている箇所数 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習した成果を実生活や実社会に生かすこと及び運動やスポーツの習慣化を図ることについて留意する。 ・自己の健康の大切さを認識し、健康・安全の保持増進や回復等に主体的に取り組み、健康で豊かな生活を営む態度が身に付くように留意する。 ・現在及び将来にわたって健康で活力に満ちた楽しく明るい生活を営む態度が身に付くよう留意する。

調査方法

種目名【 保健体育 】

観点	調査する内容・項目についての説明
<p style="text-align: center;">A 知識及び技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・運動やスポーツとの多様な関わり方（楽しみ方）や「する・みる・支える・知る」について扱っている箇所数について調査を行う。 （例）運動やスポーツの価値、文化的意義、領域が有する特性や魅力、運動実践につながる態度の形成、生涯にわたる豊かなスポーツライフ、健康・安全の留意点について記載されている箇所 ・健康や体力の状況に応じて体力を高める必要性について取り扱っている箇所数について調査を行う。 （例）より効果的に体力を高めること、習慣的に運動やスポーツを行うことの意義や例示の箇所 ・心の健康や疾病の予防に関する健康課題の解決に関わる内容、ストレス対処や心肺蘇生法等の技能に関する内容の箇所数について調査を行う。 （例）・科学的な根拠をもとに説明されている実験結果や、統計、学校医など専門家の話で理解を促す内容が記載されている箇所 ・運動と健康の関連について具体的に記載している箇所 ・心肺蘇生法の技能について記載している箇所
<p style="text-align: center;">B 思考力、判断力、表現力等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な日常生活の体験や事例を題材にした話合いや、思考を促す資料を用いて健康に関する課題を解決する学習活動を取り上げている箇所数について調査を行う。 （例）「自分の生活を振り返り、〇〇について課題発見しよう。」、「〇〇についてどんな方法があるか考えてみましょう。」「〇〇の理由について具体的に説明しましょう。」など、自他の課題を発見したり、学習したことを活用・選択し、判断したり、日常生活体験から自分の考えを説明したりする活動が記載されている箇所 ・実践的理解を促すために実験などを取り上げたり、コラム、写真や図、グラフ、表などを用いて解説したりしている箇所数について調査を行う。 （例）科学的根拠を基に、説明されている実験結果や、統計、学校医など専門家の話で理解を促す内容が記載されている箇所
<p style="text-align: center;">C 学びに向かう力、人間性等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・運動やスポーツの多様な楽しみ方を共有することができるような共生の視点の箇所数について調査を行う。 （例）・ルールやマナー、態度、「する・みる・知る・支える」、喜びに関わる写真の箇所 ・自己の健康・安全に関する取組や自己の健康の保持増進や回復のために主体的、協働的に活動するよき気付くような事例や問いの箇所数について調査を行う。 （例）「病気の予防で学習したことを生かして、次のことについて考えてみましょう。」など問題に設定されているものや、「学習のまとめ」コーナー等で学んだことを活用している事例を紹介している箇所 ・身近な健康や心身の発育・発達などを肯定的に捉えられるような内容を取り上げている箇所数について調査を行う。 （例）思春期に起こる体の変化など、吹き出しや専門家の話等で自分の体の変化を肯定的に捉えられるような内容が記載されている箇所
<p style="text-align: center;">デジタル教材について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書に掲載されている二次元コードからアクセスできるデジタル教材について、教科書の内容とどのような関連があるか調査を行う。 ・理解を深める内容となっているか調査を行う。

観点の内容

技術・家庭科（技術分野） 目標

技術の見方・考え方を働かせ、ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を通して、技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 生活や社会で利用されている材料、加工、生物育成、エネルギー変換及び情報の技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深める。
- (2) 生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、製作図等に表現し、試作等を通じて具体化し、実践を評価・改善するなど、課題を解決する力を養う。
- (3) よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

観 点	観点のための研究調査事項	指導についての留意事項
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・材料、加工、生物育成、エネルギー変換及び情報の技術についての科学的な原理や法則、基礎的な仕組みについて取り上げている箇所数 ・製作や栽培又は飼育、検査・点検等ができる技能について取り上げている箇所数 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで開発され生活や社会で利用されてきた技術について、その仕組みと関係する科学的な原理・法則の理解と、それらに係る技能の習得を図ることに留意する。 ・製作、制作、育成、調理等の実習の指導において、機器類、刃物類、引火性液体、電気、ガス、火気などを取り扱うため、安全の保持に十分留意する。
B 思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・生活や社会の中にある技術に関わる問題について取り上げている箇所数 ・課題を設定し解決する一連の学習過程について取り上げている箇所数 	<ul style="list-style-type: none"> ・技術分野として解決を目指す問題の範囲が、身近な生活といったものだけでなく産業等も含めた社会にあることに留意する。 ・生活や社会の中から技術に関わる問題を見だし、課題を設定して解決策を構想し、製作図や回路図、計画表等に表現して試行錯誤しながら具体化し、実践を評価・改善することのできる力を育むことができるよう留意する。
C 学びに向かう力、人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決とその過程を振り返り、改善、修正や生活への活用の仕方について取り上げている箇所数 ・環境や経済、社会と技術との関わりやよりよい生活、持続可能な社会の構築に関して取り上げている箇所数 	<ul style="list-style-type: none"> ・技術分野として育成を目指す学びに向かう力、人間性等が、安心、安全で便利な生活の実現や持続可能な社会の構築のために、主体的に技術に関わり、技術を工夫し創造しようとする実践的な態度であることに留意する。 ・社会からの技術に対する要求と、開発・利用時の安全性、自然環境に関する負荷、開発・利用に必要な経済的負担等の相反する要求の折り合いを付け、最適な解決策を考えられるよう留意する。

調査方法

種目名【 技術・家庭科（技術分野） 】

観点	調査する内容・項目についての説明
<p style="text-align: center;">A 知識及び技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・材料、加工、生物育成、エネルギー変換及び情報の技術についての科学的な原理や法則、基礎的な仕組みが分かる表や図、写真の箇所数について調査を行う。 （例）木質材料の拡大写真、魚の生産量に養殖の占める割合のグラフ、蛍光ランプ中の電子の動きの図などの箇所 ・製作や栽培又は飼育、検査や点検などの技能に関する基礎的な内容を取り上げている箇所数について調査を行う。 （例）作業手順の流れ・用具の扱い方、安全に関する注意事項などの箇所
<p style="text-align: center;">B 思考力、判断力、表現力等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生活や社会の中にある技術に関わる問題について取り上げている箇所数について調査を行う。 （例）「考えよう」「問題点を見つけよう」といった問題点を考えさせるための表記や項目などの箇所 ・課題を設定し解決する一連の学習過程について取り上げている箇所数について調査を行う。 （例）問題解決学習の具体的な学習の流れや実践例などの箇所
<p style="text-align: center;">C 学びに向かう力、人間性等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決とその過程を振り返り、改善、修正や生活への活用の仕方について取り上げている箇所数について調査を行う。 （例）評価レポート例、製品等の改善、修正に向けた質問や自宅での活用例の紹介などの箇所 ・環境や経済、社会と技術との関わりやよりよい生活、持続可能な社会の構築に関して取り上げている箇所数について調査を行う。 （例）木材の循環に関する資料、水産生物の生育環境の図、大規模建造物の構造に注目した写真や図、発電方法と環境への影響をまとめた比較図などの箇所
<p style="text-align: center;">デジタル教材について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書に掲載されている二次元コードからアクセスできるデジタル教材について、教科書の内容とどのような関連があるか調査を行う。 ・理解を深める内容となっているか調査を行う。

観点の内容

技術・家庭科（家庭分野） 目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 家族・家庭の機能について理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
- (2) 家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決する力を養う。
- (3) 自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

観 点	観点のための研究調査事項	指導についての留意事項
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・家族・家庭、衣食住、消費や環境についての基礎的な理解に関わる資料の箇所数 ・調理や製作などの技能に関する内容を取り上げている箇所数 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族・家庭、衣食住、消費や環境などに関する内容を取り上げ、生活の自立に必要な基礎的な理解を図るために、調査や話し合い活動を取り入れ、生徒が主体的に考えられるよう留意する。 ・実践的・体験的な活動を重視した学習を通して、一定の手順や段階を追って身に付けるだけでなく、自分の経験や他の技能と関連付けながら主体的に活用できる知識・技能として習熟・定着させるよう留意する。
B 思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭や地域で活用するための教材や学習活動を設定している箇所数 ・問題解決的な学習の一連の学習過程を取り上げている箇所数 	<ul style="list-style-type: none"> ・「生活の課題と実践」において、家族・家庭生活や衣食住の生活、消費生活・環境で学習した内容との関連を図りながら課題を設定し、実践的な活動を家庭や地域で行うことができるよう留意する。 ・問題解決的な学習においては、解決方法を考えたり、計画を立てて評価・改善したりする際、考察した意見を他者と交換する活動を通して、多角的に検討できるよう留意する。
C 学びに向かう力、人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児や高齢者などとの関わり、日本の生活文化の継承、豊かな生活の創造、将来の家庭生活や職業との関わりについて取り上げている箇所数 ・各教科等の内容や、道徳の内容、小学校での学習内容と関連をもたせた指導に関する内容が設定されている教材の数 	<ul style="list-style-type: none"> ・身に付けた資質・能力を活用して、家族と協働し、地域の人々と協働しようとする態度、日本の生活文化を継承しようとする態度、生活を楽しみ、豊かさを味わおうとする態度、将来の家庭生活や職業との関わりを見通して学習に取り組もうとするなどの実践的な態度を養うことができるよう留意する。 ・各教科や道徳等の指導内容との関連を図るとともに、小学校家庭科や高等学校家庭科における学習と系統立てて、生徒の生活とのつながりを重視し、家庭や地域における実践に結びつけることができるよう留意する。

調査方法

種目名【 技術・家庭科(家庭分野) 】

観点	調査する内容・項目についての説明
<p style="text-align: center;">A 知識及び技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家族・家庭、衣食住、消費や環境についての基礎的な理解につながるグラフや表・図・写真・資料の箇所数について調査を行う。 (例) 幼児と中学生の体型の比較図、食品の成分グラフ、住まいにおける地震対策の図、繊維の拡大写真などの箇所 ・調理や製作などの技能の定着を図る内容(作業手順の流れ・用具の扱い方など)を取り上げている箇所数について調査を行う。 (例) 食材の切り方、計量の仕方、スナップのつけ方、ミシンの取り扱い方などの箇所
<p style="text-align: center;">B 思考力、判断力、表現力等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家族・家庭や地域で活用するための教材や学習活動の箇所数について調査を行う。 (例) 調理例、作品例、発展、探究、実習、考えてみよう、調べてみよう、やってみよう、挑戦しようなどの箇所 ・問題解決的な学習の一連の学習過程を取り上げている箇所数について調査を行う。 (例) 問題解決学習の事例、話し合おうなどの箇所
<p style="text-align: center;">C 学びに向かう力、人間性等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児や高齢者など家族や地域の人々との関わり、日本の生活文化の継承、豊かな生活の創造、将来の家庭生活や職業との関わりについて取り上げている箇所数について調査を行う。 (例) 幼児・高齢者とのふれあいや日本の伝統文化に関する資料、プロへのインタビューなどの箇所 ・各教科等の内容や、道徳の内容、小学校での学習内容と関連をもたせた指導に関する内容が設定されている教材の数について調査を行う。 (例) 他教科や道徳、小学校の学習と関連がある箇所
<p style="text-align: center;">デジタル教材について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書に掲載されている二次元コードからアクセスできるデジタル教材について、教科書の内容とどのような関連があるか調査を行う。 ・理解を深める内容となっているか調査を行う。

観点の内容

外国語科 目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けるようにする。
- (2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。
- (3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

観 点	観点のための研究調査事項	指導についての留意事項
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・「聞くこと」「読むこと」といった技能別（領域別）活動の箇所数 ・「話すこと [やりとり]」「話すこと [発表]」「書くこと」といった技能別（領域別）活動の箇所数 	<ul style="list-style-type: none"> ・言語材料のうち、五つの領域別目標を達成するのにふさわしいものについて理解するとともに、言語材料と言語活動を効果的に関連付け、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けることができるよう留意する。
B 思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的な話題や社会的な話題について、英語を聞いたり読んだりして必要な情報や考えなどを捉える言語活動の箇所数 ・日常的な話題や社会的な話題について、英語を聞いたり読んだりして得られた情報や表現を活用し、話したり書いたりして事実や自分の考え、気持ちなどを表現する言語活動の箇所数 ・日常的な話題について、伝える内容を整理し、英語で話したり書いたりして互いに事実や自分の考え、気持ちなどを伝え合う言語活動の箇所数 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な課題等を設定し、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報を整理しながら考えを形成し、これらを論理的に表現することができるよう留意する。 ・言語活動を行うに当たり、言語の使用場面や言語の働きを取り上げるよう留意する。
C 学びに向かう力、人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に取り組むことができるよう、段階的に設定された言語活動の箇所数 ・外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者を配慮し受け入れる寛容の精神や平和・国際貢献などの精神を獲得し、多面的思考ができるような題材設定の箇所数 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が興味をもって取り組むことができる言語活動を易しいものから段階的に取り入れたり、自己表現活動の工夫をしたりするなど、様々な手立てを通して生徒の主体的に学習に取り組む態度の育成を目指した指導をするよう留意する。 ・英語を使用している人々を中心とする世界の人々や日本人の日常生活、風俗習慣、物語、地理、歴史、伝統文化、自然などに関するものの中から、生徒の発達の段階や興味・関心に即して適切な題材を効果的に取り上げるよう留意する。

調査方法

種目名【 英語 】

観点	調査する内容・項目についての説明
<p style="text-align: center;">A 知識及び技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「聞くこと」「読むこと」における技能別（領域別）活動の箇所数について調査を行う。 （例）ListenやQ and A等の技能別（領域別）活動の箇所 ・「話すこと [やりとり]」、「話すこと [発表]」、「書くこと」における技能別（領域別）活動の箇所数について調査を行う。 （例）SpeakやWrite等の技能別（領域別）活動の箇所
<p style="text-align: center;">B 思考力、判断力、表現力等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的な話題や社会的な話題について、英語を聞いたり読んだりして必要な情報や考えなどを捉える言語活動の箇所数について調査を行う。 （例）現在ヒットしている5本の映画についての情報を聞き取るなどの言語活動の箇所 ・日常的な話題や社会的な話題について、英語を聞いたり読んだりして得られた情報や表現を活用し、話したり書いたりして事実や自分の考え、気持ちなどを表現する言語活動の箇所数について調査を行う。 （例）地球にやさしいエネルギー源について書かれた資料を読み、一番よいと思う発電方法を選び、理由も含めて発表するなどの言語活動の箇所 ・日常的な話題について、伝える内容を整理し、英語で話したり書いたりして互いに事実や自分の考え、気持ちなどを伝え合う言語活動の箇所数について調査を行う。 （例）夢の世界旅行について考え、自分の行きたい国とそこで何をしたいかを伝え合うなどの言語活動の箇所
<p style="text-align: center;">C 学びに向かう力、人間性等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に取り組むことができるよう、段階的に設定された言語活動の箇所数について調査を行う。 （例）メールの書き方について、モデル文を理解した後、メールに使える表現を選び、それらを活用してメールを書く等の言語活動の箇所 ・外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者を配慮し受け入れる寛容の精神や平和・国際貢献などの精神を獲得し、多面的思考ができるような題材設定の箇所数について調査を行う。 （例）アメリカでのホームステイ、世界に広がる日本食文化、世界で活躍する日本人、環境問題等が題材として設定されている箇所
<p style="text-align: center;">デジタル教材について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書に掲載されている二次元コードからアクセスできるデジタル教材について、教科書の内容とどのような関連があるか調査を行う。 ・理解を深める内容となっているか調査を行う。
<p style="text-align: center;">デジタル教科書</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・書かれている英文等について、語彙や表現の習得が可能となる機能の有無について調査を行う。 （例）音声と同時に文字の色が変わる機能や、マスク機能等 ・使用場面が設定された言語活動等について、より内容が理解できる動画の有無について調査を行う。 （例）音声の速度を調整する機能や、英文の表示・非表示の選択機能、アニメーション動画等の再生機能等 ・書き込んだ内容に基づいて交流することにより、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じた内容に再構築することを促すことができる書き込み機能の有無について調査を行う。

観点の内容

道徳科 目標

第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

観 点	観点のための研究調査事項	指導についての留意事項
A 知識及び技能	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳的価値の理解に関わる学習活動の箇所数 ・現代的な課題に関する内容等多様な教材の箇所数 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳的価値が人間らしさを表すものであることに気付き、価値理解と同様に人間理解や他者理解を深めていくよう留意する。 ・生命の尊厳、自然、伝統と文化、先人の伝記、スポーツ、情報化への対応等の現代的な課題などを題材とし、生徒が問題意識をもって学ぶことができるように留意する。
B 思考力、判断力、表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・物事を多面的・多角的に考えるための教材や学習活動の箇所数 ・多様な考え方を生かすための言語活動の箇所数 	<ul style="list-style-type: none"> ・物事を一面的に捉えるのではなく、生徒自らが道徳的価値の理解を基に考え、様々な視点から物事を理解し、主体的に学習に取り組むことができよう留意する。 ・生徒が多様な感じ方や考え方に接する中で、考えを深め、判断し、表現する力などを育むことができるよう、自分の考えを基に話し合ったり書いたりするなどの言語活動を充実させることに留意する。
C 学びに向かう力、人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・自らを振り返り、成長を実感したり、これからの課題や目標を見つけたりする学習活動の箇所数 ・各教科等と関連をもたせた指導、日常生活における実践との関連に関する内容を取り上げている箇所数 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が自ら道徳性を養う中で、自らを振り返って成長を実感したり、これからの課題や目標を見つけたりすることができるよう留意する。 ・各教科等と道徳科の指導のねらいが同じ方向であるとき、学習の時期を考慮したり、相互に関連を図ったりして指導を進めると、指導の効果を一層高めることができる。その際、各教科等と道徳科それぞれの特徴が生かされた関連となるよう留意する。

調査方法

種目名【 道徳 】

観点	調査する内容・項目についての説明
<p style="text-align: center;">A</p> <p>知識及び技能</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・読み物教材以外の、道徳的価値の理解を深める教材の数について調査を行う。 (例) コラム、先人の名言等を取り上げている箇所 ・生命の尊厳、自然、伝統と文化、先人の伝記、スポーツ、情報化への対応(情報モラル)等の現代的な課題などに関する内容等について調査を行う。
<p style="text-align: center;">B</p> <p>思考力、判断力、表現力等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・物事を多面的・多角的に考えるための学習活動に資する教材の数について調査を行う。 (例) 友達のいいところ見つけ等、多様な考え方が生まれる活動 ・多様な考え方を生かすための言語活動について、書き込み部分の数や話し合い活動を具体的に設定した数について調査を行う。
<p style="text-align: center;">C</p> <p>学びに向かう力、人間性等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自らを振り返り、成長を実感したり、これからの課題や目標を見つけたりする学習活動を設定している教材の数について調査を行う。 ・道徳科と各教科等との関連をもたせた指導、日常生活における実践につなげることができるような設定をしている教材の数について調査を行う。
<p>デジタル教材について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書に掲載されている二次元コードからアクセスできるデジタル教材について、教科書の内容とどのような関連があるか調査を行う。 ・理解を深める内容となっているか調査を行う。